

# さんぽみち



連絡先

鶴の木特別出張所

☎ 3750-4241

発行 わがまち大田鶴の木地区推進委員会

創刊「さんぽみち」によせて

わがまち大田鶴の木地区推進委員会  
鶴の木地区町会連合会

会長 川上 智由

住みよいまちづくりのため、地域のみなさんの英知をだしあつていこうと発足した「わがまち大田鶴の木地区委員会」もすでに三年がすぎました。

この間の多くのみなさんのご協力ありがとうございました。

今日、かつての向こう三軒両隣といった心と心のふれあいがだんだん薄れてきているといわれています。私たちの地域社会がほんとうに

わが町・今・昔・これから

鶴の木西町会 中澤 四郎

鶴の木と言っても、鶴は一羽もない今、鶴の真似の出来ないカラスに人が馬鹿にされ、ゴミ戦争とやらで大変です。

鶴の木特別出張所管内には七町会がありますが、新生児の氏神様も鶴の木、白山、御岳神社と複雑です。旧三菱重工跡地に建設中のパーク・ハウスは下丸子です。区画整理は終わっても、昔からの伝承はなかなか、変わるものではありません。

最近空き家が増えていますが、火災原因の一位は放火です。世界一平和な日本ですが、危険は交通戦争と共に充満しています。

富士見通り商店会も本秋には、

住みよいまちにしていくためには物の豊かさもあることながら、地域のみなさん一人ひとりが大切にされ、心豊かな地域のふれあいがあつて、初めて実現するのではないのでしょうか。

そこでこの度、鶴の木地区でさまざまな出来事、文化、催しなどを掲載する地域情報紙「さんぽみち」を発刊しようということになりました。

鶴の木地区が真に住みよいまちになるよう、この情報紙をみなさんで育ててください。

編集委員のみなさんがんばっています。よろしくご協力をお願いします。

「ふれあい道路」となる予定です。三菱のパーク・ハウスが完成すれば、町の様子は随分変わるでしょう。

全国鶴の木祭りは鶴商連が主導で始まり、行政と共同行事になりました。昨年の打ち上げ式で隣にいた新潟の頸城村字鶴ノ木の佐藤様と意気が合い、引き続きお付き合いをしています。人の出会いは本当に奇なものです。商店会ではイベントを益々発展させ商圏を拡大して下さい。住民の皆様は、この町をもっと、もっと綺麗にしましょう。



## 住居表示変更の想い出

鶴の木東町会 池田 進太郎

早いものであれから二十三年すぎたかと思うと全く感無量です。

区から調布鶴の木町から南久が原に表示変更の通知を受け、公聴会が区役所にて開催されたのが昭和四十三年四月頃でした。公述人として賛成三名、反対三名づつの意見陳述です。賛成側として伊東清さん、近藤昇さんと私の三人が推薦をいただきました。町会会員から現状維持か、変更か何回も話し合い賛成を得ての公述でしたから熱弁？をふるいました。

最初の私は、交通機関の目蒲線の関係点を論じ、次の近藤さんは「とも簡単明瞭で、池田公述人の言う通り」。伊東さんも二人の意見と同じの言葉で結びました。



後日総会に報告し了承を頂き昭和四十三年九月一日、新しい町名として調布鶴の木町から南久が原が誕生し施行されました。これからは地方自治に住民の一人として深く考え快適な暮らしを追求して行きたいと思っております。最後まで旧町名を守り残したかった人々も多くいたはずですが、その方々の暖かい友情を今あらためて感謝申し上げます。

## 三つ目の公園

南久が原一丁目町会 平川 漢夫

私たちの町に新しい公園が出来ました。通称「かえる公園」と言います。

新しく出来た公園は多目的にと広場だけの公園です。公園は子ども達の遊びの場であり、憩いとふれあいの場ともなり、災害時の避難場所ともなります。

戦後公園も少なく、遊ぶ場所もなかった時代、子どもの交通事故は最悪の状況でした。その原因は子どもが道路で遊んでの事故、遊び場の不足と車の急増でした。

そこで当面の処置として子どもの安全を考え道路を遮断、「遊び場道路」として開放した。

しかし従来道路は車、ひとの通る道であり子ども達の遊ぶ場所ではない、公園が新設整備されれば通常の道路に返すのが本来の姿だろうと思う。

三つ目の公園を子ども達がどのように利用してくれるか、この公園が町のコミュニティの場として意味ある広場に利用できたらと願っております。



### 鶴の木三丁目町会

千葉 栄子

鶴の木三丁目町会の年間行事をご紹介いたします。新年のあいさつより先に町内どんと焼きから初まります。新年の賀詞交換会、つぎは五月総会に向けての準備、総会が終わりますと夏の盆踊り、秋の祭礼、敬老会、そして暮れのおもちつきと大休一年の行事を終わります。その間には、役員研修会、婦人部の旅行が計画されます。

今回はまず、わが町のどんと焼きからご紹介いたします。「どんと焼き」、広辞苑によりますと小正月に門松、竹、しめ縄などを集めて焚く習俗とでています。

### 千鳥会です

千鳥北町会 水野 敬司

千鳥町には千鳥会。商栄会青年部として、会員相互の親睦を主な目的に昭和五十二年に発足しました。現在は会員数六十一名。月に一度理事会を開催しており、毎年二月に一泊の旅行を実施しています。今年も二月に伊豆・北川温泉で、参加二十二名全員が楽しいひとときをすごしました。特に二次会では美人コンパニオンとのデュエット希望者が続出。次々と自慢のノドを披露して盛んな拍手を浴び大変に盛り上がりしました。

千鳥会には自慢の手造り神輿があります。毎日新聞にも出ました。昭和五十五年二年かけて完成。

### 多摩川の河川敷が近い

が外れますと町会事務所の前に集められるのですが、近ごろは門松も少なく、思うような量ではなく苦勞いたします。当日は鉄板等を用意して、どんと焼きの残り火でやきそば百名分程を作り、また一方で軽いおしるこ等も用意し、少年野球チーム、また土手行く人々や、どんと焼きに集まって来てくださった皆様には、今年の無病息災を祈り食べていただきます。残り火は、わが町ご自慢の消防隊が消防服に身をつつみ、多摩川の水で放水し、完全消火の後、きれいに清掃して一日を終わります。

### 笑ってい、町!

鶴の木三丁目町会 山崎 美樹

落語と聞いてどんなイメージをお持ちですか? 懐かしい思い出、それとも古くさい、自分には無関係、なんて感じたらご再考を! 今落語は熱く燃えている。日本のどこかで毎日落語会が行われ、情報紙に載った落語会には二千人以上が押し寄せ、若手落語家ファンが殺到する。特に若い女性の落語への思い入れは大変なもの。

落語は美しい日本語の文化。歌舞伎や相撲とかとは多少楽しみ方は異なる。日本語の持つニュアンスとか型とか粋とかと言う粋もあるが、落語は庶民の中に育った文化、誰でも気軽に楽しめる。

鶴の木三丁目町会では、落語を地域の文化として守り育てようと平成元年、山田町会長、成瀬総務

### 御嶽神社千鳥分社遷座祭について

千鳥南町会 倉方 勝雄

平成二年初頭から準備されて新しい神社に御入魂の儀式が八月二十四日御嶽神社松本宮司さんと他二名の神主さんにより行われました。

五十年に一回か、百年に一回の非常に稀なこの儀式は夜間家々の電灯・外灯を一切消して真暗で行われます。

三人の宮司さんは白無垢の神衣に着替えて厳かに祝詞(のりと)を上げ、神に額つきいよいよ新神殿へ御神体の国常立の尊の御魂を

### のきふせ



さんの呼びかけに愛好家六十余名が集い席亭連が結成され、落語会「多摩川鶴の木寄席」が誕生しました。立川談志師匠が同町の出身で旧知の友人も多いことから立川派落語が主。年三回の開催で、第六回を数えた本年二月寄席は談志独演会。会場の同町会会館では地域の内外の二百三十五名が落語を楽しんだ。

いろいろな年齢の人が落語に笑う。気軽な服装で適当な格好で、しかも手近に・・・もう最高! あなたも是非「多摩川鶴の木寄席」へ! お後もよろしいようです!

### 鶴の木三丁目町会の絆

私たちの暮らしている鶴の木地区には、七つの町会があります。みなさんごぞんじですか。鶴の木東町会 鶴の木西町会 千鳥南町会 鶴の木三丁目町会 千鳥北町会 鶴の木三丁目町会 南久が原一丁目町会

### 編集後記

うぶ声を上げた本紙、如何ですか。皆さんの感想をお寄せ下さい。原稿をいただきました皆様有難うございます。編集委員の皆さん創刊号の故いろいろのご苦勞があった事と思えます。その苦勞を糧としてこれからもよろしくお願ひします。

編集長 池田 進太郎

### 編集委員

池田進太郎 渡辺光子  
板倉正子 水野敬司  
神谷勝彦 政氏孔子  
千葉栄子

